

台風予報の図表示方法の指針の概要

基本的要件	具体的指針		
①暴風に対して警戒必要な範囲を示すこと	(実況部分) 台風の中心位置(×印)、暴風域、強風域を表示する		
	(予報部分) 暴風警戒域を表示する		
②台風進路予報についての誤差の範囲を示すこと	予報円を表示する		
③予報対象時刻を明示すること			
④①～③のことを誤解なく、わかりやすく表示すること 特に、複数の対象時刻の予報を1枚の図にまとめて表示する場合	暴風警戒域を実線で、予報円を破線で表示する		
	各時刻の予報円に接する線を実線で表示する		
	予報円・暴風警戒域が込み合う場合	一部時刻の予報円・暴風警戒域を省略できる	
	さらに、暴風警戒域が込み合う場合	各時刻の暴風警戒域の円の表示に代えて、暴風警戒域の通過する範囲を実線で表示できる	
	付加的な情報を表示する場合	予報円の中心点を表示できる 予報円の中心点を結ぶ線を破線で表示できる ただし、台風の中心がこの点や線上を進むかのような誤解を招かないよう、適切な解説を行う	

※「暴風域に入る確率の面的情報」は、上記の図表示の追加的情報とする。

予報円・暴風警戒域が込み合う場合の例

防災上伝えるべき情報をすべて表示

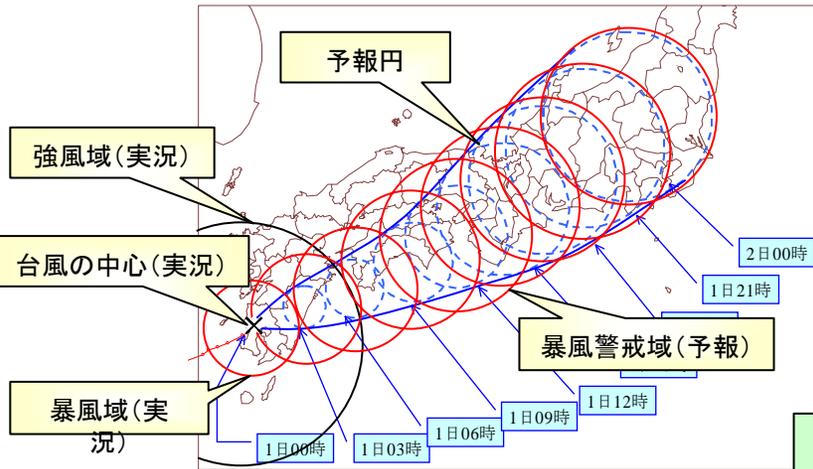
(実況部分)

○台風を中心位置、暴風域、強風域

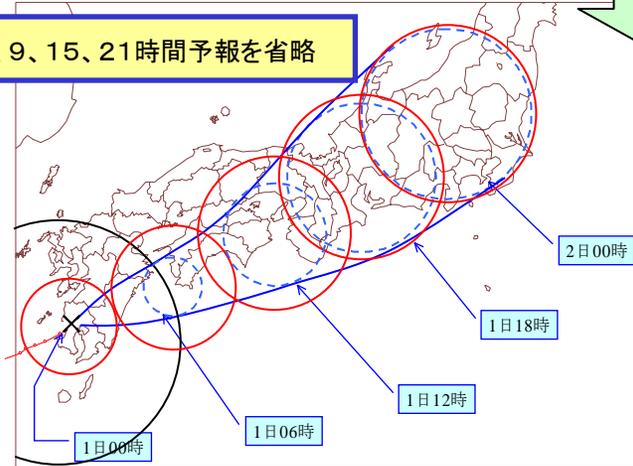
(予報部分)

○予報円(各時刻の円とその接線)

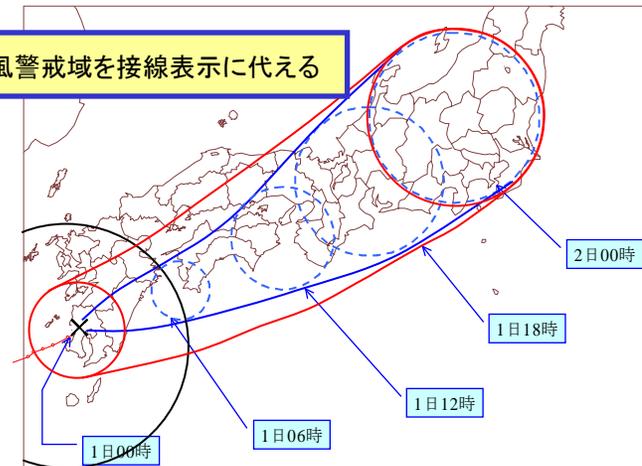
○暴風警戒域(各時刻の円)



例: 3、9、15、21時間予報を省略



暴風警戒域を接線表示に代える



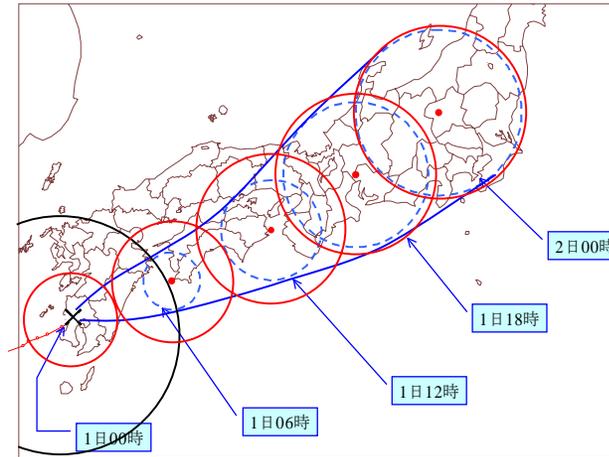
予報円及び暴風警戒域が込み合っ見えにくい場合は、わかりやすさの観点から、一部時刻の表示を省略できる。

さらに暴風警戒域が込み合っ見えにくい場合は、わかりやすさの観点から、暴風警戒域を接線で表示できる。

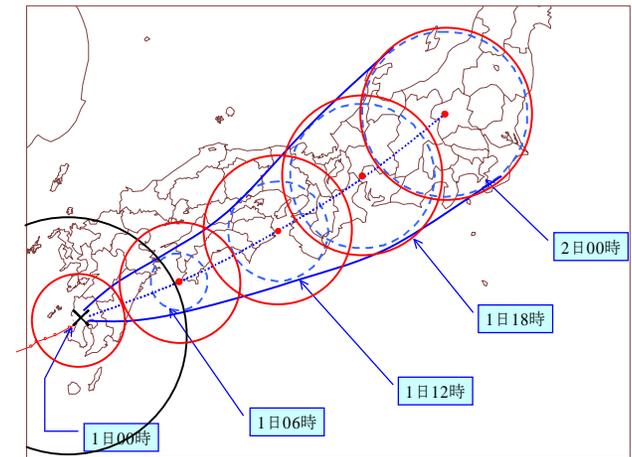
付加的な情報を表示する場合の例

予報円の中心位置の表示を可能に

① 予報円の中心点を表示



② 中心点を結ぶ線も表示



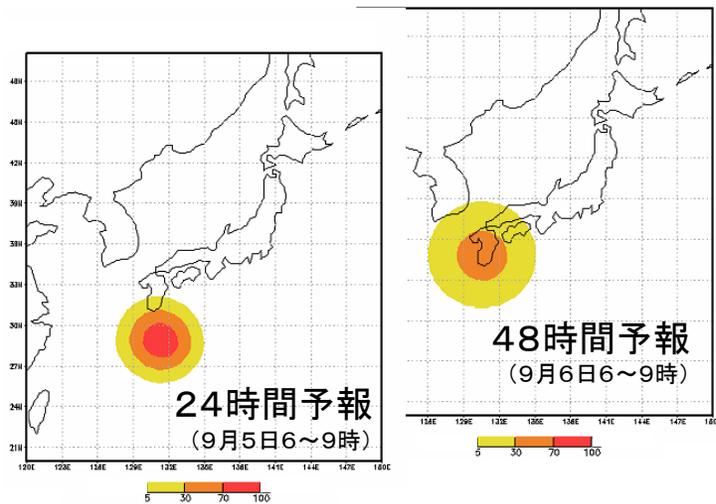
(表示するメリット)
 ・台風の進むコース
 やタイミングがわかり
 やすくなる
 ・特に警戒が必要な
 場所がわかりやすくなる

ただし、点や線上を台風の中心が進むかのような誤解を招かないよう、適切な解説を行う。

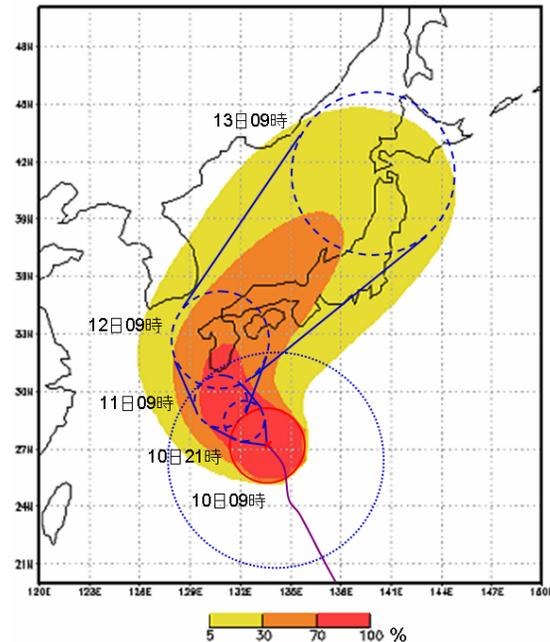
「暴風域に入る確率の面的情報」の利用

台風時における細かな防災対応判断を支援する情報として、
「暴風域に入る確率の面的情報」を提供する。

①72時間先までの 3時間刻みの時間帯毎の情報



②0時間から72時間先まで積算した情報 (1枚の図に表示する場合に利用)



0時間から72時間先まで積算した情報の利用にあたっての留意点

- 当面、暴風警戒域を用いた図表示の追加的情報として表示する。
- 予報対象時刻が後になるほど確率が低くなるのが、台風の勢力が弱まるとの誤解を招かないよう、適切な解説を行う。